

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2 年 3 月 18 日

### 【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3471503650		
法人名	瀬戸電設工業株式会社		
事業所名	グループホームふる里 津之郷の家（1F ひまわりユニット）		
所在地	〒720-0841 広島県福山市津之郷町津之郷1085番地1		
	電話番号	(084) 951-8382	
自己評価作成日	2020年2月8日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 3 月 27 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 2 年 2 月 27 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>静かな環境に立地していることもあり、ホームの名前の通り、入居される方にとって、「第2、第3のふる里」と思っただけのような環境づくりをしています。また地域住民の方にとっても、自由に気兼ねなく立ち寄れる雰囲気作りを目指しています。居室は、外への出入りがしやすいものとなっています。近くに新しい県道が完成し、ご家族様やご親戚様等の面会する際のアクセスがしやすくなりました。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな田園地帯の中にあり近隣には、まだ、田畑もあり、時々収穫で季節が感じられ、穏やかな環境である。同法人のデイサービスや小規模多機能事業所が隣接されていて、各事業所と連携を取り、利用者同士の触れ合いや職員間の連携で各利用者を支えられている。事業所の名前の如く、第二の故郷となる様、共に支え合い、声かけや会話を大切に信頼関係を築き、大きな家族の様に穏やかに一日一日を大切に過ごしてもらう様全職員が統一した支援を心掛けている。また、個々の残存機能を活かす場面作りをされ、お絞りのたみや食後の御盆拭き等をしてもらい、張りのある暮らしに繋がられている。地域との関わりも行事や散歩などで顔見知りの関係ができる様取り組み、気軽に立ち寄って頂き地域の一員として交流出来る様務めている。又、施設長は高齢者介護に関する講演会の講師として出向かれ、地域貢献に繋がっていると共に今では地域の理解も深まっている。医療面に於いても協力医療機関との密な連携が構築され、24時間いつでも指示が得られ、運営推進会にも参加があり、とても協力的であり、安心である。歯科に関しても依頼すればいつでも訪問可能であり、常に適切な医療の確保ができています。家族とも信頼関係を築きながら、家族の協力、地域の支えを得ながら三者で利用者が馴染みの地で安心、安全に一日を大切に生活して頂ける事と利用者本位のペースを大切にしたいチーム支援に取り組まれている管理者をはじめ、職員が明るく、家庭的な穏やかな雰囲気の事業所であり、第2の故郷となるであろう。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目につくところに理念を掲示しており、スタッフ一人ひとりが理念を理解し、取り組んでいます。	玄関など誰もが見え易い場所に掲示し、迷いが生じた時、見ることで原点に戻り、反省と意識する機会となっている。また、ミーティングや申し送りでも周知し、実践に向け取り組まれている。又、毎日、その日の目標を立て、夕礼で目標の確認を行い統一したケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭りのお神輿が立ち寄ってくださったり、ボランティアの方や園児の来訪、ふる里の行事への参加等、ホームへ足を運んで下さっている。また地域の敬老会や運動会への参加を前向きにしていきたいと思っています。	地域行事の清掃活動や運動会などに参加したり、お祭りには御神輿が来てくれたり、近隣の保育所の園児や小学生が訪問して演奏してくれることもある。又、ボランティアの受け入れも積極的にし、色んな方との交流に努めている。敬老会にも参加する方もいる。地域へ高齢者介護について講演会もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成の貢献として、これまで介護実習生の受け入れ等についても積極的に行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、運営推進委員会を開催し、年間行事等の報告やグループホーム等の状況のご説明を行っています。またホームで開催する勉強会への参加についても声かけを行っています。	家族代表、自治会長、老人会長、民生委員(複数名)行政、包括職員等の参加の下、現状を事細かく報告し、各参加者の意見や情報を得、サービスに活かしている。勉強会となる事もある。(健康寿命を伸ばすには、についてDVDを見て勉強)協力医療機関の主治医の参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことがあった際には、市町の担当者の方に相談や指導を伺うようにしていきたい。	運営推進会議への参加が得られている為、現状や取り組みについては理解してもらえている。疑問点等があれば、電話や出向き、相談する事もある。又、運営推進会議の中で相談する事もあり、施設長と常に連携をとっている。包括主催の会議に参加する等協力関係は築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのようなものが身体拘束にあたるのかをスタッフは理解しており、研修があれば参加しています。またホームで開催する勉強会等でも取り組みをしました。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、話し合いや勉強会を実施し、全職員、具体的な行為について正しく理解されている。不穏な方には要因を把握し連携を取り見守りで対応され、抑圧しない支援に取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から言葉遣いに気をつけ、ご本人が不快に感じるようなことがどんなことか等を把握し、気をつけています。またアンケートを実施したり、ホームで開催する勉強会等でも話し合い、互いに注意を払い防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	大まかな理解は出来ていると思うが、きちんと把握するまでには至っていないので、研修等があれば参加していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、介護支援専門員を中心に十分な説明をしています。また不明な点についても遠慮なく相談していただき、理解を得てから契約をして頂くようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者としてしっかり関わりを持ち、言葉や態度、表情などから不満や不安を読み取るよう努力しています。またご家族が何でも話していただけるような関係作り、雰囲気作りに努め、行事等に参加していただいた時には感想やご意見を伺うようにしています。	家族の訪問時や行事等で、現状について報告する際、把握するように努めている。今では意見も気軽に言われる。色々な場面での意見や要望等は真摯に受け止め、運営に反映させている。と共に個々に対応もしている。月1回便りを出し、現状を把握してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロアごとに目標を定め、意見を聞くようにしています。またスタッフの記入する業務日報に気づきや意見が書けるようになっています。それは施設長や運営者が目を通すことになっています。	日々のケアの中や申し送り時、また、業務日誌に記入する等、職員の意見は大切にし、反映させている。それぞれの意見や提案は運営者や施設長が目を通されると言う体制となっている。個人面談の機会もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフ間の人間関係の把握に努め、必要に応じて話ができる環境にあります。また職員の資格取得を支援し、勤務日の調整など職務に対する協力支援もしてくれます。毎月、ホーム独自の自己評価票を各自記入し、向上心がもてるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフが希望する研修があれば、参加してもらうようにしています。またその研修報告を行うことで、他スタッフの勉強にもなっていると感じます。ホームで開催している勉強会も引き続き行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修があれば、出来るだけ参加するようにしています。その中で事業所外の人の意見や経験を聞いて帰り、他のスタッフへの助言やケアに活かしています。またホームでの勉強会にも運営推進委員の方や他事業所の方へ声かけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談において、生活状況をしっかり把握し、不安を最小限にとどめるようにしています。来訪時には、ご本人も同席してもらっています。また契約をする前に、ご希望があれば体験入居についても対応できるようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が相談しやすい雰囲気作りを心がけています。ご家族の悩みや希望を伺って、どのような支援が出来るかを考えさせていただきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、ふる里の他の施設のご案内やサービスも紹介したり、それ以外にもこういった介護サービスがありますという情報をお伝えするようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活する中で、「家族」のような関係作りを努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とスタッフが話し易い関係作りを努めています。中には家族関係が希薄な所もあり、面会が少ない、またスタッフとの話がなかなかできない方もおられます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来ていただきお話をされたり、施設内で顔見知りの方がいると会いにいかれ、お話されています。	家族や親戚の訪問もある。帰宅願望の方には自宅近くまで行く等、又、隣接の通所介護事業所の利用者の中に馴染みの方がいると会いに行かれています。家族と外出したり、お正月には日帰りされる方もいる。できるだけ馴染みの人や場との関係が少しでも長く継続出来る柔軟な支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やおやつの時間は、スタッフも一緒にテーブルにつき、会話を引き出すようにしています。スタッフが調整役になることもあり、利用者同士の関係がうまくいくように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者ご本人がお亡くなられた後も、ご家族が来訪され、利用者やスタッフとの関係が続いていましたが、季節の推移と共に最近はなくなってきています。たまに、来訪されることがあるくらいです。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声かけ、見守りをしっかりとし、把握に努めています。言葉や表情を読み取って、利用者ご本人の思いを確認しています。	会話の中や生活歴などから把握したり、利用者同士の会話からも汲み取る事もある。食べ物、散歩、お花見に行きたい等、色んな思いが出る。できる事は対応するように努めている。表出困難な方には家族の協力を得ると共に選択史を出し、その時の表情から検討している	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に対し、面談時や来訪時に、これまでどんな生活を送られてきたのか伺うようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	勤務が交替制であることから、勤務者が交替しても、介護記録や申し送りノート、夕方のミーティングによって利用者一人ひとりの1日の状態や様子が分かるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、日々ミーティングで利用者一人ひとりのケアについて話し合い、作成するようにしています。また主治医の意見、ご家族、ご本人の要望も反映するように努めています。	家族や本人の希望、主治医の所見、日々の状況から個々のニーズや課題について職員間で話し合い、その中での意見等を基に作成し、家族の承諾を得ると共に職員にも周知している。モニタリング2~3ヶ月、見直しは半年から一年となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルにケア記録、状態、身体的状況、利用者本人の「言葉」等を記入し、スタッフ間の情報共有を徹底しています。また、この記録を基に介護記録の見直しも行います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模多機能型居宅介護をはじめふる里にある介護サービスを中心に、多機能性を活かした支援を心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民謡、フラダンス等のボランティアや小学生や園児等が来訪されています。また、警察、消防署との連携を図り、各種訓練等を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人やご家族の希望するかかりつけ医になっています。また皮膚科、眼科、外科、認知症外来等、ご本人やご家族の希望に応じて受診介助をすることもあります。	利用者や家族の希望を聞き対応している。協力医療機関の往診が月2回、訪問歯科支援もある。他科については基本家族対応であるが同行する場合もある。診察結果、特記事項があればその都度報告し共有している。看護師の職員がいる為、日々の健康管理ができていますと共に協力医も24時間指示が得られる体制である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームスタッフとして看護師を配置しました。併設する小規模多機能ホームと合わせて看護職員同士が協力し、状態変化に応じた支援を行っています。また協力医療機関の看護師とも密に連絡が取れる関係ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関に情報提供を行い、不安なく治療に専念していただいています。また顔を忘れてしまわないよう、スタッフが見舞うようにし、ご家族とも密に連絡を取り合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、主治医の協力の下に、グループホームでもターミナルケアを行っています。（実践事例あり）	利用開始時、指針を基に説明し、理解は得られている。状況変化が起きた場合は、主治医から家族に説明し、家族に意向の確認を行い、家族、主治医等三者で再三にわたり話し合い、主治医と密に連携を取り、看取り計画を作成し、その都度家族に報告しながら、三者で方針を共有しチームで支援に取り組まれている。研修もを行い、不安なく対応できる様取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	適宜、救命救急の講習を受けています。また緊急時マニュアル、病気の症状別対応マニュアルを整備しており、夜間時の緊急時への対応にも備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者と共に避難訓練を行っています。また日中の災害訓練のみを行っています。いざという時、落ち着いて避難誘導等がしっかりと出来るようにしていきたいと思っています。	年2回、消防署指導1回自主1回、通報、消火、避難誘導等の訓練を行い、慌てず速やかに対応できる様取り組まれている。運営推進会議の中で報告すると共に協力の依頼もし、地域との協力体制強化に努めている。火災に限らず水害等の訓練もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	配慮を持って声かけ、話しかけをおこなうようにしていますが、言葉のかけ方に疑問を感じた時は、お互いに注意し合っています。	2ヶ月毎に研修を行い、人生の先輩であり、尊厳を大切にされた声かけや対応をするよう周知していると共に馴れ合いになっても、節度ある対応を心掛ける様取り組まれている。職員間でも気づいた時には注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人と話をしていく中で、ご本人の希望や思いなどを受け止めています。洗濯物をたたんだり、干す時には声かけをし、ご本人に決定してもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や昼寝等、利用者ご本人の気持ちを尊重しているが、どうしても時間に振り回されることがあるので、一人ひとりの状態や希望に合わせて、ゆとりを持った支援をしていきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方には、利用者本人の思うようにしていただいています。自己決定が難しい方には、一部介助や全介助をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食の献立について意見を伺うことがあります。食事はスタッフも同じものを同じテーブルと一緒に話をしながら、楽しく食べています。	トロミ、キザミ食等、個々の状況に合わせた形態となっている。職員も同じ テーブルで同じ物を食べながら、世間話や食を促す声かけをしながら、楽しい時間となっている。お絞りのたみやトレ拭き等、できる方には声かけし、力量発揮の場面作りをされ、張りのある生活に繋がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量のチェックをしています。食事摂取量の少ない方には好物を聞いてみたり、食事量が確保できるよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけや介助を行っています。また就寝前には、義歯の消毒をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記録しているので、利用者本人の時間に合わせてトイレ誘導をしています。また尿意のある方には、訴えのある時に誘導しています。	居室にトイレが設置されている。個々の時間帯や表情などから把握し、トイレでの排泄に努め、機能維持、生活習慣、気持ち良く排泄できる支援を心掛けている。二人介助の必要な方にもトイレ誘導し、残存機能を活かすよう取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時にはヨーグルト、おやつ時には果物を積極的に取り入れています。またラジオ体操、ストレッチ、散歩等を取り入れながら水分摂取量や食べ物、運動等に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2人介助の必要な利用者、スタッフが充実している曜日に入浴していただいている。それ以外の方は週に2～3回入浴しています。またスタッフの人数の多い時間帯に入浴していただくことで安全性を高めています。	週2～3回、午後となっている。湯温やゆっくり入りたいと言う方の希望にも対応し、入浴が楽しみとなる支援を心掛けている。拒否の方は現時点ではない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠スタイルを大事にしています。眠れない人には、見守りをしたり、飲み物を勧めたりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用の有無、用法、用量については個人ファイルに閉じています。服薬時には必ず2名のスタッフで名前、いつ服用する薬かを確認しています。そのあとご本人に薬を渡し、きちんと服薬できているかの確認を行っています。異変があれば主治医に相談を		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じてお手伝いしていただき、感謝の言葉を伝えるようにしています。また行事などの楽しみなことは早めに伝え、会話が弾むように心がけています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	状態観察をしながら散歩、受診等、一人ひとりに合わせた外出支援をしています。	地域行事や家族との外出、個別対応であるが近くのサービスエリアに行かれたり、お庭で御花見をする等、四季を感じてもらっている。天候や身体状況が良い場合は散歩に出かけ外気に触れる機会も持たれ、気晴らしや五感刺激、となる支援を心掛けている。以前に比べ介護度も高くなり、個別の外出となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にてお金を所持している方はほとんどおられません、中には所持されている方もおられます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で電話がかけられる方は、自由にかけられています。ご自分でかけることは難しいが会話の出来る方には取り次いでいます。また、毎月ご家族の方にその月の状態などを手紙に書いて送っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの飾りつけは、季節を連想できるものを利用者と一緒に作成しています。またソファで寛いだり、居眠りをされたり、テレビを見たり、と思いいいに過ごされ、居心地は良さそうに感じています。	玄関には季節が感じられる、装飾品やお花もあり家庭的である。廊下には利用者の写真や利用者の書かれたお習字も飾られている。リビングの窓からは明るい陽射しが差し込み明るく、快適に過ごせる空間である。畳スペースやソファも置かれ思い思いの場所で過ごす事ができる。不快な匂いもなく、清潔に保たれている。室温にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	硝子越しに気の合う人達が日向ぼっこをされたり、テレビで時代劇が始まると居間の周辺に移動しています。日中、天気の良い日には庭を散歩されたり、ベランダに出たりと一人になるスペースを思い思いに作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時には、出来るだけご自宅が使われていた馴染みのある物を用意していただくようお願いしています。また、ご本人が塗った塗り絵などを居室には飾っています。	収納ケースや椅子、ラジオ、思い出の写真、好きなぬいぐるみ等が持ち込まれている。又、カレンダーや時計も置かれ時の認識に繋がられている。作成されたぬり絵も飾られている。また、使用されていたベットも持ち込まれている。自宅とのギャップが無い様な環境づくりをされ、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は、バリアフリー対応となっており、廊下、浴室、トイレには手すりが設置しているので安全確保と自立への配慮は出来ていると感じます。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらい			○	②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある			○	③たまに
			④ほとんどない				④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しづつ増えている
			③利用者の1/3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが				②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2/3くらいが				
			③利用者の1/3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホームふる里 津之郷の家

作成日: 令和 2 年 3 月 25 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	地域との協力体制づくりに、まだまだ課題が多い。	地域との協力体制をより築いていきたい。	運営推進会議でこれまでも協力依頼等してきたが、地域の人と一緒に避難訓練を行うよう働きかける。	6ヶ月
2	36	節度ある対応、配慮を持った言葉かけをする意識向上を図りたい。	より一層、プライバシーの保護、利用者一人ひとりの尊厳を大切にする。	接遇をしっかりとしていくと共に、お互いに言葉のかけ方などに耳を傾けて注意しあうことを継続する。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。